

第24回地域福祉実践研究セミナー IN 愛知・半田

ワークショップ 第4 報告

医療と福祉の連携～在宅での看取りをどう支えるのか～

実践報告者

高木宏明（諏訪中央病院）

森田貞子（株式会社すみれ：訪問看護ステーション）

神谷日出明（NPO法人ひなたの物語り）

アドバイザー

戸枝陽基（日本福祉大学 社会福祉法人むそう）

神山裕美（日本地域福祉研究所：大正大学）

地域担当者 前山憲一（半田市社会福祉協議会）

中根靖幸（半田市社会福祉協議会）

参加者状況

1. ワークショップ会場名

社会福祉法人むそう「アートスクエア」

2. 参加者人数と内訳

30名（内訳）

社会福祉法人8名・学生7名・教員5名・NPO法人3名

社協2名・行政2名・地域包括2名・居宅介護事業所1名

目 的

1. 在宅での看取りや医療依存度の高い障害児者の事例より、患者・利用者ニーズ中心の取り組みを学ぶ
2. 地域包括ケア推進の重要な構成要素の一つである、在宅医療と地域福祉の連携を考える。
3. 参加者全員で医療と福祉の連携について、「私の地域でできること」等を話し合い共有する。

展 開 方 法

9 : 30 午前の部 開始

9 : 40 事例&取り組み報告

神谷日出明「医療的ケアを必要とする子どもを含め、さまざまな生きにくさを持った子どもたちの現状と課題」

森田貞子「医療と福祉の連携～在宅での看取りをどう支えるか～」

高木宏明「持続可能な在宅診療と地域包括ケアのために～茅野市と諏訪中央病院の場合～」

11 : 30 ミニ・シンポジウム

12 : 15 午前の部 終了 *昼食『うんぷう』 *高木先生ミニライブ

13 : 20 午後の部 開始 *アイスブレイク

13 : 50 ワーク①「私たちの地域の医療福祉連携の現状・課題」各グループで個人ワーク→グループで共有→全体発表

14 : 45 休憩 *おやつタイム

15 : 10 ワーク②「わがまちの医療的ケア、看取りのしくみをつくるには」 ワールドカフェ方式

16 : 10 全体共有 *テーブルマスターが発表、意見交換

16 : 50 実践報告者、アドバイザーのコメント

17 : 15 午後の部 終了 →交流会へ（うんぷう）

在宅医療・訪問看護・医療的ケア児実践の



先達から学ぶ

仕事をする地域や分野は違っても



対象者への想いは同じ

ラーメン+地元新鮮野菜いっぱい「むそう」昼食



昼食後、高木先生のギターライブ演奏

結果（事例&取り組み報告からの学び）

生活と成長を支えて
伸ばす社会福祉視点

病児の在宅ケア
は心を育て
成長を楽しむ

断らずに
チャレンジする

訪問してやり方
を考えてみま
しょう

臓器別医師より
総合診療医

在宅医療には
総合診療医

病児ケア支援と
サービスの不足

制度の狭間
サービス開発

患者・利用者
ニーズ中心に
動く

人と地域のニーズが
専門職の仕事の原点

多職種でなく
地域での
多業種連携

地域生活を支える
多様な人と協力

考

在宅医療と地域福祉の連携の課題

何をしているか？どんな視点や価値観か？

他職種のことをわからない

接点少ない・組織違う・出会う場少ない

情報共有の不足・事業所間差

障害・認知症・看取り等、病理vs生活vs強み

医療と福祉視点差の相互理解

察

わたしの地域でできること

地域の
つながり調整
役を担う

わからないことは
他職種に
尋ねる

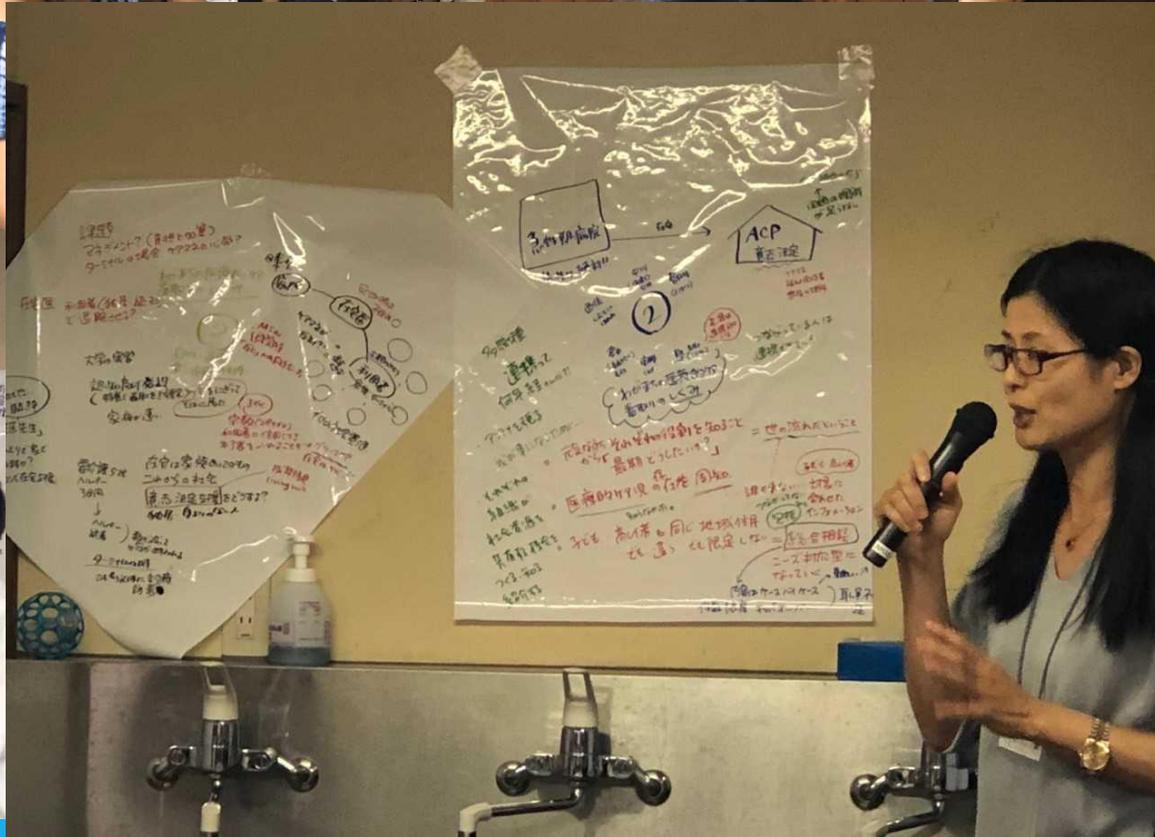
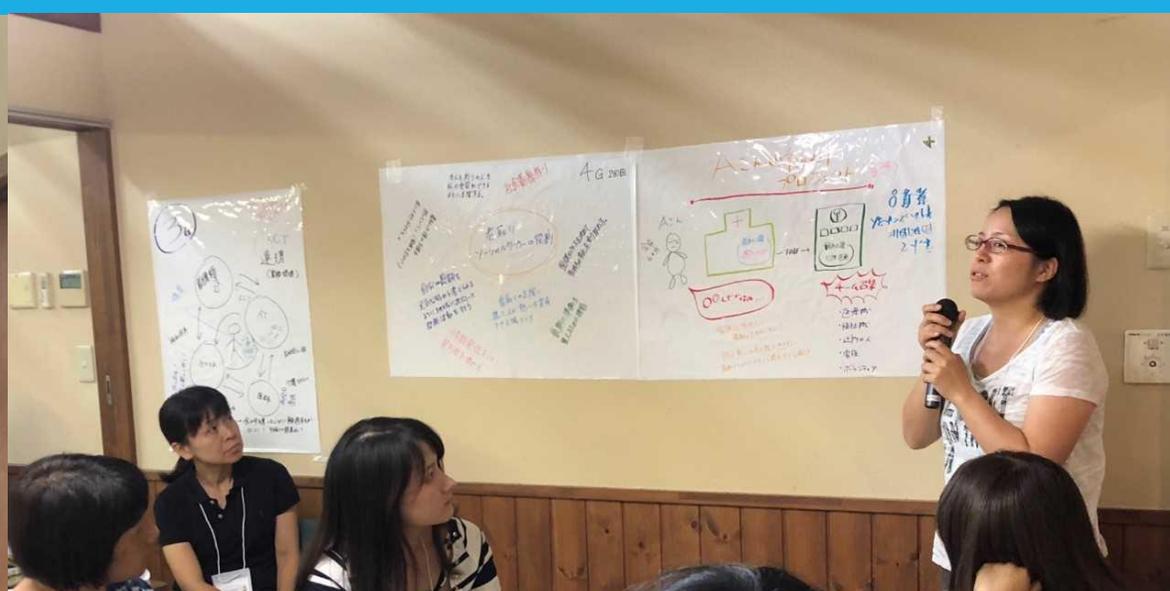
総合診療医増
やす働きかけ

既存資源みえ
る化

住民の
知る権利守る
情報発信

高齢ケア実績
を多世代に
広げる

ファシリテーターは
発表も
うまい!



結論・今後の展望

地域包括ケアのゴールは看取り・医療との連携不可欠

地域での活動や参加から看取りまで対象者ニーズ中心に仕事を広げる

我が事として看取りを考えるために

元気な時から知り、
考える場をつくる

- 明るく開放的な最期を表現する場（モバゲーム・最後までどう生きるか）
- 家族のいない人のサービス開発と改善（「地域は家族になれない」：老LowSchool）

気持ちの揺れを
受けとめる

- ピアサポートの仕組み・自分も含めた人材養成
- 看取り相談窓口（緩和ケア理解・医療と福祉、つながる専門職）

看取り後の
グリーンケア

- ピアサポートの仕組み
- 家族だけでなく職員も
- 限界のある時の宗教へのつながり